

令和元年度 宇都宮市立河内中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

（1）基本目標

生徒の知・徳・体の調和のとれた成長を期し、豊かな心を持ち、自ら学び、たくましく生きようとする生徒を育成する。

（2）具体目標

- ① 実力を養う…たくましい体力と何事にもくじけぬ強い精神力(耐性)を養い、自ら学習しようとする意志力を持つ生徒を育てる。
- ② 友愛を深める…礼を重んじ、友情を育て、深め、思いやりのある生徒を育てる。
- ③ 品性を高める…人格向上を目指して自己を磨き、豊かな心を持つ生徒を育てる。

2 学校経営の理念（目指す学校像を含む）

（1）「魅力ある学校」（感動ある学校、学び合う学校）

- ① 主体的・対話的で深い学びのある授業の実践
- ② 感動を味わうことができる学校行事の推進
- ③ 言語活動と読書活動の充実
- ④ 人権意識の涵養と規範意識の醸成
- ⑤ 保護者との連携の強化

（2）「地域とともにある学校」（カリキュラムマネジメント）

- ① 地域教育力の活用
- ② 地域行事への生徒の参加・協力の推進
- ③ 地域奉仕作業、地域美化活動等の展開
- ④ 生徒の活動状況の地域への情報発信

（3）「やりがいのある学校」

- ① 協働する教職員組織の構築
- ② 教職員の授業力の向上
- ③ 教職員の服務規律の確保

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）確かな学力の育成

- ① 授業力の向上 ○② 考える力を育む言語活動の充実（学校課題）
- ③ 小中学校で連携した学習指導の充実 ・思考の言語化（学校園共通）等
- ④ 少人数指導の充実
- ⑤ 家庭学習の習慣化

（2）豊かな心の育成

- ① 「特別の教科 道徳」（考え、議論する道徳）の充実
- ② 読書に親しむ態度の育成 ・「地域学校園図書館利用指導」の充実
- ③ きまりを守り、マナーを大切にす態度の育成 ・地域学校園児童生徒のきまり
- ④ あいさつ、返事、言葉遣いの指導 ・あいさつ運動（全校・小学校）
- ⑤ 「いじめ防止基本方針（改訂版）」の着実な運用
- ⑥ 合唱コンクールの充実

（3）健康・体力の向上

- ① 健康的な生活を送るための指導の充実
- ② 新体力テストの結果を活用した教科体育の充実
- ③ 縦割りによる運動会の充実
- ④ 安全に配慮したマラソン大会の実施
- ⑤ 自他の安全を守る能力の育成 ・避難訓練 ・安全集会

（4）インクルーシブ教育及び個に応じた指導の充実

- ① 障がいに対する理解・研修及び合理的配慮への取り組み
- ② 不登校予防のための取り組み ・Q-Uの活用 ・SCとの連携等
- ③ 特別支援教育の啓発
- ④ かがやきルームの効果的活用

（5）地域と共に行う学校づくりの推進

- ① 宮・未来キャリア教育の推進及び地域人材の活用（ふれあい文化教室 福祉教育 キャリア教育 健康教育）
- ② 地域協議会との連携
・地区体育祭、文化祭、小学校運動会への参加協力 ・地域人材の活用（書写・図書館ボランティア等）
- ③ 地域や郷土との関わりを深める教育活動の推進 ・クリーン活動等

（6）学校における働き方改革の推進

- ・業務の効率化 ・事務文書の削減 ・部活動指導体制の見直し ・勤務時間の管理

[河内地域学校園教育ビジョン]「すこやか河内」

—小中一貫教育を通して、子どもたちの心身の健やかな成長を目指します—

4 教育課程編成の方針

- (1) 関連する法令、栃木県教育振興基本計画、第2次宇都宮市学校教育推進計画に従い、本校教育目標が達成できるように全職員の理解と協力により編成する。
- (2) 地域や生徒の実態、学校の施設設備、職員組織を考慮し、必修教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動、生徒会活動、学校行事）の調和を図って編成する。
- (3) 基礎的・基本的な内容の指導の徹底、個性を生かす教育の充実、自ら学ぶ意欲と社会の変化に対応できる能力の育成を図り、生涯教育の基礎を培うことを目標に編成する。
- (4) あらゆる教育活動の場で、「学び合い・喜び合い・励まし合う」活動内容や場を設定し、生徒同士や教職員および地域の人々との交流を深めながら、3あい運動の深化・拡充を目指し編成する。
- (5) 学校の教育活動全体を通じて、体力の向上や健康の増進を図るため体育的活動を積極的に行い、健康で安全な生活を送るための基盤となるよう編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

- ① 「魅力ある学校」づくり ② 感動的な学校行事の推進 ○③ 計画的な小中一貫教育の推進
- ④ 職員の働き方の見直し

【学習指導】

- ① 学力調査等を活用した共通実践 ② 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- ③ 学校園授業コンセプトの定着・充実 ④ 言語活動の活性化

【児童生徒指導】

- ① 規範意識の育成と毅然とした生徒指導（「学校園児童・生徒のきまり」の指導）
- ② 温かい人間関係を醸成する豊かな言語環境の整備
- ③ 生徒に主体的に判断させ、実践させる場や機会の意図的な設定
- ④ 保護者、地域への生徒指導の取組の説明や啓発活動の充実

【健康（体力・保健・食・安全）】

- 『健康増進・体力向上の基本的な知識を身に付け、自分の身体の状態を理解し、体力向上に励む生徒の育成』
- 「運動に親しむための体力づくり」

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

- ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。
- ※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 70%以上	① ○主体的、対話的に授業に取り組む生徒の育成を目指して、「考える力を育む言語活動の充実」を図る。 ② 方法や形態等の工夫を図り、言語活動の場面を効果的に取り入れた授業を行う。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%で、目標指標を30ポイント上回っている。また、保護者の肯定的回答が前年度比5ポイント以上上昇した。 【次年度の方針】 ○地域学校園の新しい授業コンセプトの研究に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」が全ての教科で実現できるようにする。
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 80%以上	① 「特別の教科 道徳」の授業改善に取り組む、生徒の道徳性を高める。 ② 温かな人間関係を基盤とした学級経営を推進する。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は90.9%で、目標指標を11ポイント上回っている。 【次年度の方針】 学級担任と生徒の良好な人間関係を基盤とした学級経営や、「特別の教科 道徳」の充実を図る。
	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。	① ルールを守る、いじめをしないなど、人として大切なことを全ての職員がしっかりと指導する。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は95.2%で、目標指標を10ポイント上回っている。また、前年度比

生徒の姿 する	【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 85%以上	② 学校行事等の体験活動の中で、ルールを守って活動することの大切さを実感させる。	5ポイント以上上昇した。 【次年度の方針】 今年度に引き続き、基本的なルールやマナーの指導を、全教職員の共通取組で行う。また、旅行的行事の際に必要なマナーの指導を丁寧に行う。
	A4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 75%以上	○① 全教育活動を通じて、明るくさわやかなあいさつができるように、全職員で指導を行う。 ○② 小中一貫教育、学校交流連携促進部会との関連を図りながら、小中学校、地域ぐるみのあいさつ運動を展開する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 93.9%で、目標指標を 19ポイント上回っている。また、前年度比 5ポイント以上上昇した。 【次年度の方針】 ○地域学校園あいさつ運動を継続して行う。また、生徒会企画のあいさつ運動など、校内でのあいさつを活性化させる。
	A5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 75%以上	① 生徒が興味や関心を持って学習に取り組む課題設定についての授業研究を推進する。 ② 運動会や合唱コンクールに、学級や団で協力して取り組みませ、達成する喜びを感じさせる。	A 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 87.4%で、目標指標を 12ポイント上回っている。 【次年度の方針】 部活動や学校行事の目標を明確にし、その達成に向けて具体的に組み組めるようにする。また、「宮・未来パスポート」の活用法について検討する。
	A6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 75%以上	① 給食で「苦手な食べ物を食べる努力」をする指導を継続して行う。 ② 交通安全教室や、避難訓練、日常の巡回指導での声掛けを通じて、安全に生活することの大切さを意識づける。	A 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%で、目標指標を 25ポイント上回っている。 【次年度の方針】 食育を教科・領域を含めて実施できるようにする。また、生徒のリスク感覚が向上するように、具体的な指導や声掛けを行う。
	A7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 75%以上	① 各学年で行われる体験的な進路学習を通じて、将来の夢や希望を具体化させる。 ② 地区内小学校や自治会でのボランティア活動へ生徒の参加を促す。	A 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 87.4%で、目標指標を 12ポイント上回っている。 【次年度の方針】 地域人材を活用したキャリア教育へ取組等を行い、将来の生き方に具体的な見通しが持てるようにする。また、地域ボランティア活動を充実する。
	A8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 70%以上	① 給食等 ALT との交流の場面を意図的に設定するとともに、積極的に会話するよう生徒に働きかける。 ② 生徒会活動で、国際交流に関する内容を積極的に取り上げる。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 92.2%で目標指標を 22ポイント上回っている。 【次年度の方針】 引き続き、ALT と生徒との交流の機会を増やせるよう工夫する。
	A9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 70%以上	① 国語の授業で百人一首に関する学習を行う。 ② 道徳科の授業で、郷土の良さについて改めて考える機会を持つ。	A 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 78.8%で目標指標を 9ポイント上回っている。 【次年度の方針】 総合や食育の指導計画の中に、宇都宮の良さを学べる内容を位置付ける。また、学校、学年だよりに宇都宮の良さを発信する内容を意図的に設ける。
	A10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 75%以上	① デジタル教科書等の ICT 機器を授業で積極的に利用する。 ② 総合的な学習の時間の調べ学習等、図書室を授業で積極的に利用する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 90.9%で目標指標を 16ポイント上回っている。 【次年度の方針】 市立図書館の資料を積極的に利用するなど、図書を学習に活用する工夫を続ける。

目 指 す 学 校 の 姿	A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 80%以上	① 総合的な学習の時間や道徳科の学習の中で、高齢者に対するいたわりや敬愛の念が育つよう意図的に指導する。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 90.9%で、目標指標を 11 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 高齢者に対する配慮や、接し方などについても学ぶ機会を持てるようにする。
	A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 70%以上	① 生徒会活動で、リサイクルに関する内容を積極的に取り入れる。 ② 地域協議会の協力を得て、学校の緑化やグリーンカーテン等の環境保全活動を積極的に展開する。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 72.5%で、目標指標を 2.5 ポイント上回っている。また、教職員の肯定的回答は市平均を 5 ポイント以上上回っている。 【次年度の方針】 各教科・領域、学校行事等で、横断的に学習ができるよう教育課程を工夫する。
	B1 生徒は、学校行事や生徒会活動に積極的に取り組んでいる。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 生徒主体の学校行事や生徒会活動が実施できるよう、各担当者が意図的、計画的に生徒を指導する。 ② 活動実施後の振り返りを十分に行い、次回の課題を明らかにして改善につなげるようにする。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%で、目標指標を 15 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 生徒会活動や学校行事を行う際 PDCA サイクルを働かせ、内容の改善と充実を目指す。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 校内支援委員会、教育相談係会、生徒指導係会の情報を全職員で共有し、生徒の支援に生かせるようにする。 ② かがやきルーム相談員と教科担任が連携を密にし、効果的な支援が行えるようにする。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 97%で、目標指標を 12 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 支援が必要な生徒について全教職員で共通理解を図り、個に応じたきめ細やかな支援ができるようにする。また、スクールカウンセラーを活用し、保護者の支援にも力を入れる。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 85%以上	① いじめゼロ集会やスマホ等の適正な使い方などいじめ根絶を図る指導を継続的に行い、その取組を学校だよりや生徒指導だよりなどにより情報提供する。 ② 教育相談を計画的に行うほかアンケート調査を実施し、いじめの早期発見に努める。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 97.3%で、目標指標を 12 ポイント上回っている。しかし、保護者の肯定的回答が前年度比 5 ポイント以上下降した。 【次年度の方針】 生徒間トラブルの早期発見、早期解決を徹底し、いじめの発生を防止する。また、いじめ防止の取組を学校だより、学年だより、ホームページ等で保護者に周知し、家庭との協力関係を強化する。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 80%以上	① 一人一人を大切に、温かい雰囲気での学級経営に努める。 ② 教育相談係会での検討を基に、生徒一人一人の状況にあった支援に努める。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 95.2%で、目標指標を 15 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 適応支援教室や、教育相談係会の運用の成果と課題を検証し、一人一人を大切に、より良い支援の方法について検討する。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 生徒の困り感に寄り添い、適切な支援を行う。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 97%で、目標指標を 12 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 外部人材を活用するなどして保護者や生徒とコミュニケーションをとり、適切な支援が行えるようにする。
	A17 学校は、活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 90%以上	① 生徒会活動の活性化を図り、生徒の自主的・継続的な活動を推進する。 ② 各種学校行事において、生徒主体の取組となるよう、計画立案の段階で十分検討する。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 91.4%で、目標指標を 1 ポイント上回っている。また、市の平均を 5 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 生徒会活動や学校行事を立案する際に、

	○③ あいさつ運動を計画・実施し、学校全体の活性化を図る。		前年度の反省を生かし、より充実した計画となるよう努力する。
A 18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 85%以上	① 「一人1授業」等の研修を通して授業力向上に努め、個に応じた指導、分かる授業、楽しい授業を展開する。 ② 部活動休養日や、週末の学習課題を工夫することにより家庭学習を習慣化させ、基礎学力の定着に努める。 ③ 定期テスト前の学習計画立案の際、適切な助言を行うことにより、生徒の学習意欲を高める。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 96.4%で、目標指標を 11 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 授業公開日や、「一人1授業研修」などの取組を充実させ、教職員一人一人の授業力を向上させる。また、時間割を工夫し、習熟度別学習や T・T を効果的に運用する。地域協議会を中心とした「放課後学習室」の運用について検討する。
A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 教職員全員が、教育目標や学校経営の重点を意識し、目標を持って業務にあたる。 ② スクールカウンセラー等の専門スタッフとの積極的な連携を推進する。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 97%で、目標指標を 17 ポイント上回っている。また、市の平均を 5 ポイント以上上回っている。 【次年度の方針】 カリキュラムマネジメントを働かせ、様々なスタッフが授業等の教育活動に関われるようにする。
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 70%以上	① 文書やデータの管理方法を改善し、前年度の資料を基に業務を行えるようにする。 ② 行事内容の精選や、会議の効率化を教職員からの提案を基に推進する。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答 87.9%で、目標指標を 18 ポイント上回っている。また、前年度比 5 ポイント以上上昇している。 【次年度の方針】 会議内容の見直し等業務の効率化を進めるとともに、保護者や地域と連携した働き方改革を推進する。
A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① <u>地域学校園研修や各部会・教科部会等を定期的に実施</u> し、計画的に推進する。 ② 「 <u>小中一貫教育だより</u> 」や「 <u>学校だより</u> 」等による情報発信に努め、保護者や地域への周知を図る。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 92.6%で、目標指標を 3 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ○今年度から実施する新しい授業コンセプトでの研究を推進するとともに、事業内容の見直しを行い、実効性のある小中一貫教育・地域学校園の取組を行う。
A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 「魅力ある学校づくり地域協議会」を活性化させることにより、保護者や地域住民と連携・協力した教育活動を推進する。 ② 地域情報を収集し、生徒に周知することにより、「地域の一員」という意識を高める。	A	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 88.9%で、目標指標を 1 ポイント下回っている。 【次年度の方針】 総合的な学習の時間や、生徒会活動の計画の中に、地域施設との交流を位置づけられるよう検討する。また、教職員や保護者からのニーズを吸い上げ、地域と連携・協力した学校教育を推進する。
A 23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① P T A 活動の活性化を図る。 ② ホームページの内容の充実を図り、地域・家庭への情報発信力を高め、開かれた学校づくりを推進する。	A	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 88.9%で、目標指標を 1 ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ホームページの改善を更に進める。また、授業公開や授業参観の機会を増やし、開かれた学校づくりの一層の推進を図る。

	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 月例安全点検や、校内巡回を通じて危険個所の早期発見、対処に努める。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%で、目標指標を 10 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 安全点検等での指摘箇所を速やかに改善する。老朽化した施設の修繕を市と連携して進める。
	A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。 【数値指標】⇒教職員の肯定的回答 75%以上	① 学習に必要な図書資料を、全教職員の提案を基に、計画的に購入する。 ② 校内の ICT 機器が効率よく使えるよう、利用法を工夫する。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 90.9%で目標指標を 16 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 教育活動に利用可能な図書や視聴覚資料、ICT 機器をリスト化して、活用を推進する。
本校の特色・課題等	B2 学校は、緑化活動や清掃など、環境整備に熱心に取り組んでいる。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 85%以上	① 自問清掃への取り組みなど、清掃活動を充実させる。 ② 教室の整理・整頓など、落ち着いた学習環境が維持できるよう、生徒に積極的に指導する。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 90.3%で、目標指標を 5 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 自問清掃に継続して取り組み、生徒に浸透させるとともに、全職員で共通指導する。また、清掃チェックリストを作成し、基本的な清掃の仕方を生徒に理解させる。
	B3 学校は読書活動の推進に熱心に取り組んでいる。 【数値指標】⇒生徒の肯定的回答 90%以上	① 朝の読書を継続し、読書の習慣を全校生徒に定着させる。 ② 図書委員会の活動を活性化し、学校図書館の積極的利用を推進する。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 82.5%で、目標指標を 7.5 ポイント下回っている。 【次年度の方針】 朝の読書や、図書委員会による読書啓発活動を継続する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・宇都宮市の共通評価となる 25 の質問（A 1～A25）において、調査した全対象者（教職員・保護者・地域住民・生徒）から回答を得た 75 項目のうち、肯定的回答の割合が 80%を上回った項目は 67 項目（全体の約 89%）であり、また、市の平均を上回っている項目は 73 項目（全体の約 97%）であることから、本校の教育活動が全体として肯定的に受けとめられていると考えられる。特に、「自己評価」である教職員評価では、学校独自の 3 項目を含めた全 28 項目中、25 項目（全体の約 89%）で肯定的評価が 90%以上の値を示している。この結果は、7 月に本校独自で行った教職員への中間評価の値をもとに、PDCA サイクルを働かせて改善の努力を続けてきた成果だと考える。
- ・本校ならではの教育活動にあたる「感動的な学校行事による、生徒の主体性や社会貢献への意欲の育成」「環境教育の推進」「読書活動の充実」の 3 つの独自の質問（B 1～B 3）においては、調査した各対象者から回答を得た 10 項目のうち 9 項目の肯定的回答が 80%を上回っており、特色ある学校づくりの推進が成果を上げていていると考える。
- ・A 9「生徒は、宇都宮の良さを知っている」A 12「生徒は、持続可能な社会について関心を持っている」は、他の項目と比較すると、肯定的回答の割合が低い。今年度から新たに加わった項目のため、取組が不十分であったと考えられる。該当する教育計画の改善と充実に努めたい。
- ・A 22「学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している」A 23「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる」の保護者の回答が目標指標に達しなかった。生徒や教職員が積極的に地域と交わり、本校教育の目指すところを社会と連携・共有しながら実現していく「社会に開かれた教育課程」の実施に力を入れていく。また、本校の指導状況が保護者に十分伝わるよう、学校だよりや学年だよりのホームページへの掲載や、授業参観の実施等の取組を行っていく。

7 学校関係者評価

- ・本校は、家庭、地域との連携、保護者の協力体制も良好だが、それを生んでいるのは合唱コンクールなどの学校行事で本校生徒の良さが伝わっているからだと思う。企業との協力体制の構築は難しいが、学区内の企業の方に地域協議会に参加していただきながら情報交換を行ったり、工場見学や企業主催の夏祭りを紹介したりするなどの手段が考えられる。
 - ・アンケートの結果は市内でも指折りで、教職員の方の努力には頭が下がる。
 - ・学校独自で中間評価を実施し、その結果を基に改善に取り組んだことが結果に表れていることが素晴らしい。
 - ・岡本西小と同様にA3「生徒は、きまりやマナーを守って、生活している」の結果が良好である。これは河内地域学校園の児童生徒の特性であり、本地域学校園内で共通理解を図り、系統的な指導を行ってきた成果だと思われる。
 - ・保護者アンケートの肯定的割合が、他の対象の結果と比較して低い。その理由と対策をうかがいたい。
- ⇒保護者が、学校の取組を判断する機会が少ないのが理由と考えられる。令和2年度は、三者懇談や授業参観等教職員や生徒の活動を実際に見てもらい機会を増やすよう計画をしている。また、今年度後半から学校のホームページ改善に取り組み、内容の充実を図っている。アクセス数の急増や、アンケートでの保護者から好意的なコメントなど、成果が上がっている。
- A9「生徒は宇都宮の良さを知っている」について
- ・教職員の肯定的回答が市の平均を大きく上回っているが、どのような取組を行っているのか。
- ⇒国語の授業や図書委員会の活動で「百人一首」を取り上げる、「特別の教科道徳」の郷土愛を育む授業で、「〇〇愉快だ宇都宮」を教材として使用する、給食時の校内放送でジャズを放送する、などの取組を行った。
- ・「宇都宮の良さを知る」よりも、自分が暮らす地域の良さを学ぶことのほうが重要と考えるが、いかがか。
- ⇒地域学校園の小学校で行われている地域についての学びを基に、地域教材を使った内容と、宇都宮全体の良さを知る内容がバランス良く学べるよう教育課程を編成していきたい。
- A20「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」について
- ・国を挙げての働き方改革の取組がなされているが、宇都宮市全体の結果は良好とはいえない。その中で本校は大きく結果が改善されている。どのような取組が行われたのかうかがいたい。
- ⇒勤務時間内に会議や保護者面談が終了できるように、日課や会議内容を工夫し、職員に「退勤時間を意識した業務遂行」という発想の転換を促した。また、トップダウンではなく、教職員からの提案を生かすボトムアップの改革を推進している。
- A14「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」について
- ・教職員、地域住民、生徒の回答は前年度と変わらないのに、保護者の回答は下がっている。その理由と対策をうかがいたい。
- ⇒いじめ撲滅集会や、教育相談、アンケートの実施等のいじめ対策の取組が、保護者に十分伝わらなかったことが理由と考えられる。学年だより等で学校のいじめ防止の取組を積極的に発信し、いじめ防止対策の周知と家庭への協力依頼を行ってきたい。
- A15「教職員は、不登校を生まないように、一人一人の生徒を大切に、生徒がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」について
- ・不登校対策について、PTAの研修への積極的参加を促すなどの、積極的な働きかけが必要ではないか。
- ⇒PTA執行部と連携を図りながら、次年度検討していきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・本校の教育活動や学校運営については、前年度までと同様、全体として肯定的に評価されている。特にA17の「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」やA1の「生徒は、進んで学習に取り組んでいる」の肯定的評価が高いことは、教職員と生徒、保護者、地域住民との信頼関係が築かれており、教職員は明るくいいきとした気持ちで教育活動に取り組み、生徒は楽しく学校生活を送っている結果と言える。また、A19「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」やA20「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」の肯定的評価の高いことは、本校教職員が、国、県、宇都宮市の教育施策を理解し、組織的効率的に教育活動に取り組んでいることを示している。
- 保護者や地域との連携や、教育活動の理解という部分に課題があるので、様々な機会を捉えて「開かれた学校づくり」を一層推進し、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指したい。
- いじめ防止や不登校対策は、国全体での課題であるので、今後も重点的に取り組んでいく。また、小学校との情報共有が大切なので、学校園内で一層の連携を図っていく。
- 第2次宇都宮市学校教育推進計画の基、新たに加わった評価項目について、取組の成果があがるよう工夫、改善を図ってきたい。